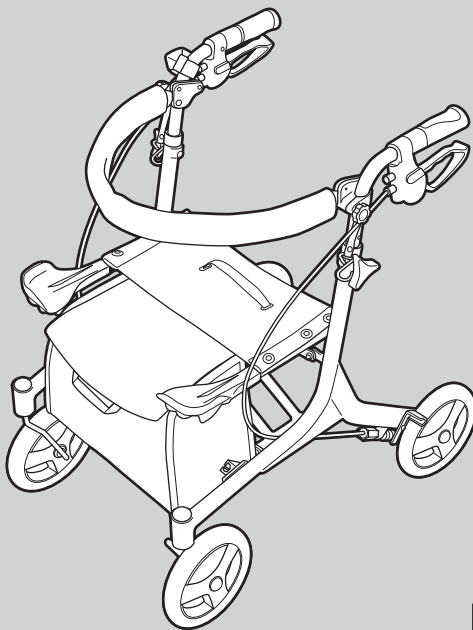


安^{あんじゅ}寿

歩行車

ショッピングターン

取扱説明書

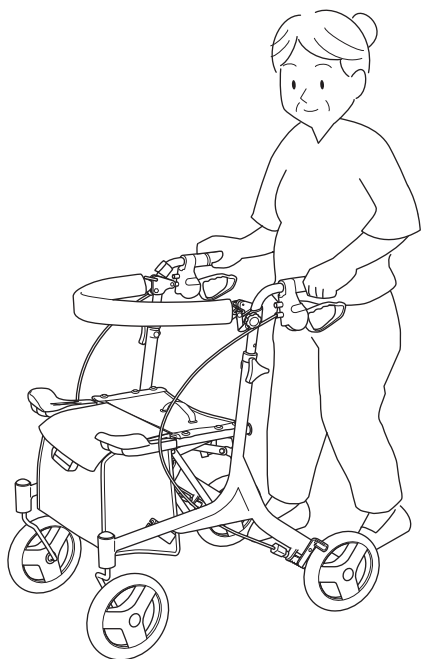


最大使用者体重：100kg

ご使用前にこの取扱説明書と保証書をお読みください。

このたびは本製品をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ・正しくお使いいただくため、ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- ・取扱説明書を読んだあとは必ず保管してください。



- ・この製品は、主として自力での歩行が困難な方の歩行を補助する歩行車です。
身体状況が不安定な方は、同伴者の付き添いのもとで使用してください。
- ・ご使用の際には、専門家（福祉用具専門相談員、作業療法士、理学療法士など）に相談してください。

保存版
(保証書付)

ARONKASEI CO.,LTD.



もくじ



確認しましょう P.3~4

- ・梱包品の確認..... 3
- ・各部の名称..... 3
- ・商品の寸法図と仕様..... 4



安全上のご注意 P.5~10



ご使用前に P.11~16

- ・本体を開きましょう..... 11
- ・バッグの取り付け、取り外しかた..... 12
- ・杖ホルダーを固定しましょう..... 13
- ・杖固定ベルトを固定しましょう..... 13
- ・ハンドル高さを調節しましょう..... 14
- ・姿勢保持ベルトの高さ調節をしましょう ... 15~16



使いましょう P.17~22

- ・操作方法
 - ブレーキのかけかた..... 17
 - 駐車ロックのかけかた..... 17
 - 杖の固定のしかた..... 17
 - 折りたたみかた..... 17
 - バスケットホルダーの使いかた..... 18
 - バスケットホルダーのはずしかた..... 19
- ・ご使用になる前に確認しましょう(点検) ... 20
- ・押して歩くととき..... 21
- ・腰かけるとき..... 21
- ・ご使用いただける環境について..... 22



お手入れしましょう P.23~25

- ・お手入れのしかた..... 23~25



困ったときには P.26

- ・保証とアフターサービス..... 26

確認しましょう

安全上のご注意

ご使用前に

使いましょう

お手入れしましょう

困ったときには

☞ 確認しましょう

梱包品の確認

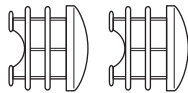
梱包品が揃っているか、下表を見ながら確認してください。

本体

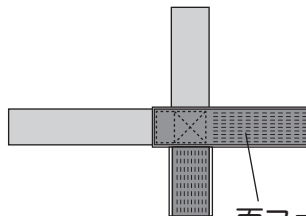


付属品

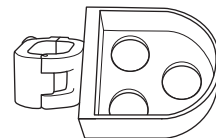
シートパイプ端部
キャップ (前)
× 2



杖固定ベルト

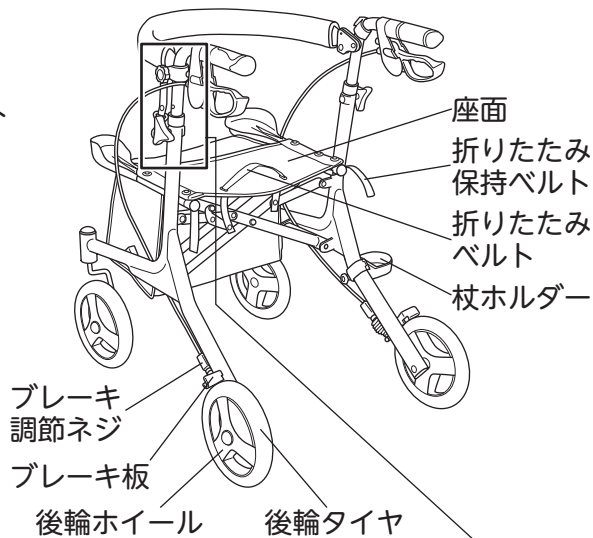
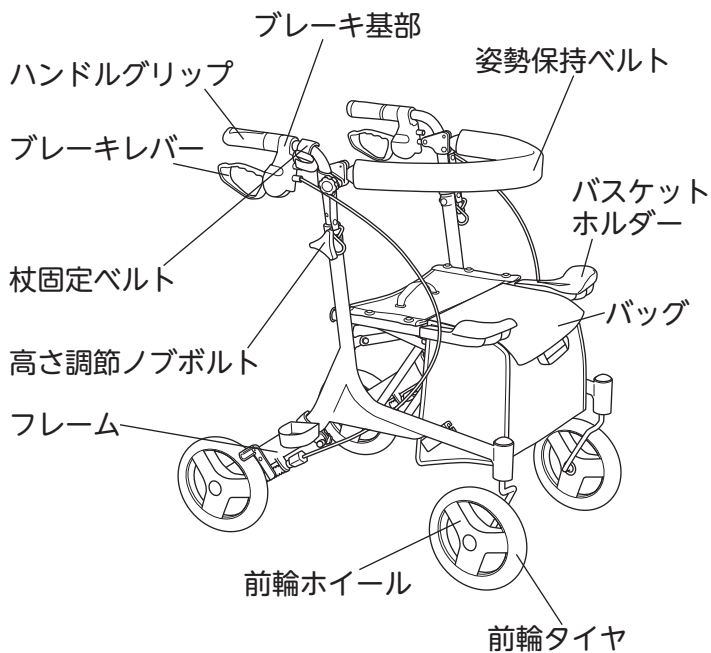


杖ホルダー

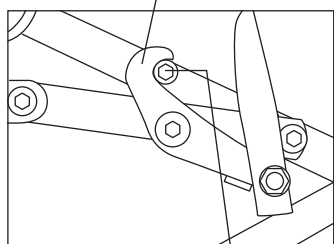


面ファスナーのループ面
(ざらざらしている方)

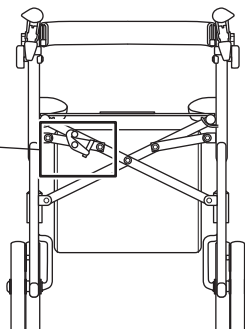
各部の名称



折りたたみ保持フック

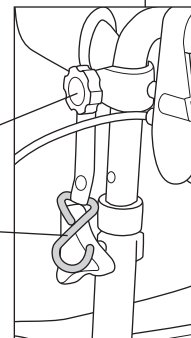


シャフト



高さ調節ノブボルト
(姿勢保持ベルト用)

姿勢保持ベルト
固定フック



確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

使しましょう

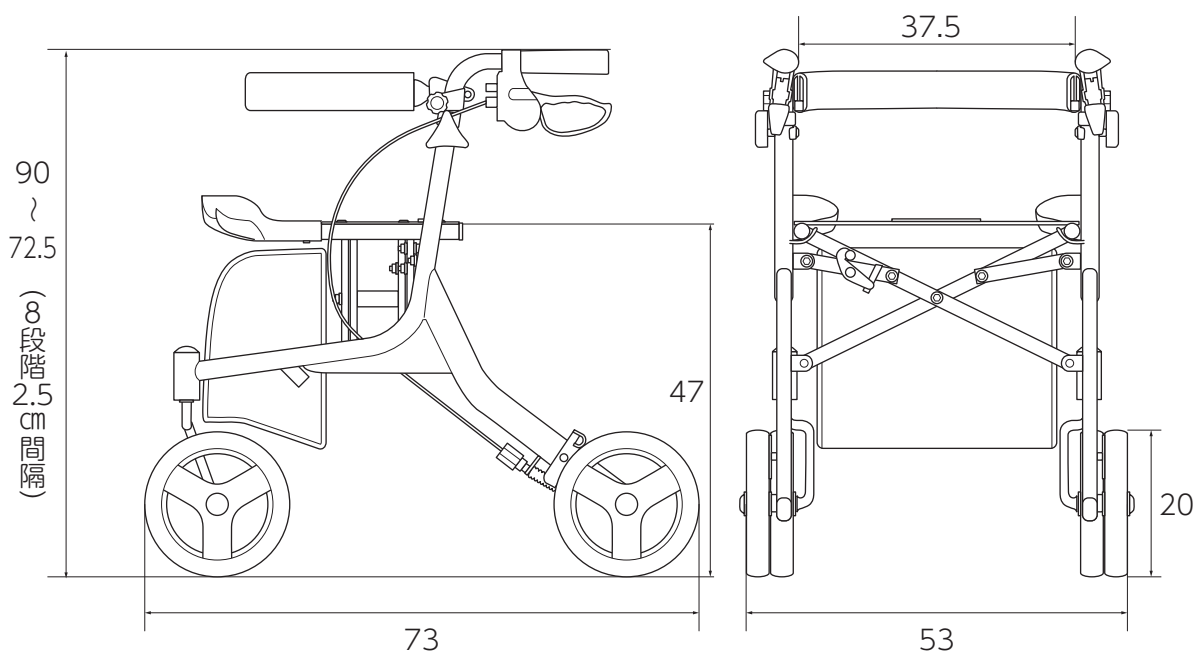
お手入れしましょう

困ったときには

商品の寸法図と仕様

商品寸法図

単位：cm



仕様

品名	歩行車 ショッピングターン	
	部品名	材質
構成部材	バッグ	綿、麻、ポリエステル、EVA樹脂
	座面	ポリエステル
	フレーム	アルミニウム
	ハンドルグリップ	エラストマー
	ホイール、ブレーキ調節ネジ	ポリプロピレン
	タイヤ	EVA樹脂
商品サイズ	幅 53cm × 奥行 73cm × 高さ 72.5 ~ 90cm (8段階 2.5cm 間隔) ハンドル高さ 72.5・75・77.5・80・82.5・85・87.5・90cm (8段階) 座面高さ 47cm	
商品重量	約 6.1 kg	
バッグ容量	約 12 L (載荷重：6kg 未満)	

廃棄上のご注意

お住まいの地域の分別ルールに従って廃棄してください。

確認しましょう

！安全上のご注意

✖ご使用前に

♡使いましょ

💧お手入れしましょ

？困ったときには

！安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他人への危害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。



警告

誤った使いかたをすると「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を説明しています。

！必ず行うこと！

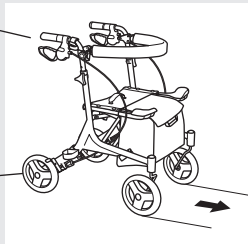
使用前に、必ず以下の作動を確認してください。転倒やけがの原因になります。

ブレーキ、駐車ロックが左右両輪とも正しく作動すること

車体が勝手に動きだす原因になります。

各車輪がしっかりと固定され、スムーズに回転すること

歩行中に車輪が外れる原因になります。



ガタつきなくまっすぐに走ること

バランスをくずす原因になります。

駐車ロックして座面に座り、ロックの効き具合を確認すること

使用前に、必ず以下の項目や、ゆりみや劣化がないかを確認してください。転倒やけがの原因になります。

タイヤおよびブレーキに摩耗がないことを確認し、必要に応じて交換すること

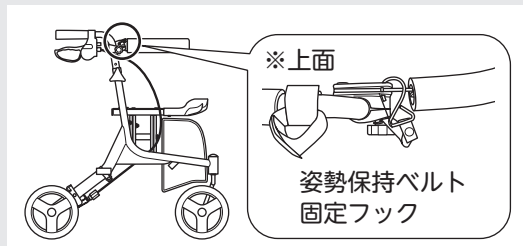
ブレーキがきかずに転倒する原因になります。

図解は…P.25「タイヤ交換時期の目安」へ

各部のネジやナットがゆるんでいないか確認すること

図解は…P.20「各部のネジやナットがゆるんでいないこと」へ

歩行する時、座面に座るときは、姿勢保持ベルトを前側にし、姿勢保持ベルト固定フックで固定すること



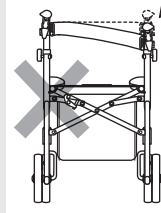
※上面

姿勢保持ベルト固定フック

ハンドル高さは左右同じ高さにすること

左右のハンドル高さが異なると車体が転倒し、けがの原因になります。

ハンドル高さが異なる



ハンドル高さは規定の高さ（90cm）を超えずに設定すること

規定の高さ以上に設定すると、バランスをくずして転倒する原因になります。

バッグが奥まで固定されていること

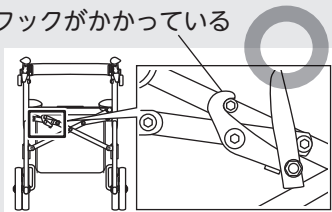
バッグが外れ、車体が乗り上げ、バランスをくずす原因になります。



フックがかかっている

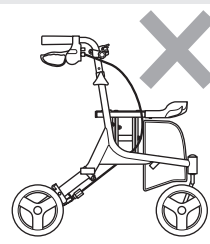
本体が完全に開いていること

中途半端に開いていると、バランスをくずす原因になります。



姿勢保持ベルトが正しい向きで取り付けられていること

姿勢保持ベルトを外したり、逆向きに取り付けることはおやめください。着座したときにそのまま後ろに転倒し、けがの原因になります。



確認しましょう

！安全上のご注意

✖ご使用前に

♡使いましょう

💧お手入れしましょう

？困ったときには



警告

誤った使いかたをすると「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を説明しています。

必ず行うこと

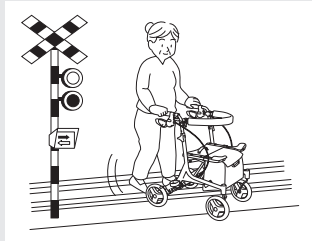
車体の破損や異常を発見した場合は、直ちに使用を中止すること

重大な事故につながるおそれがあります。

身体状況が不安定な方（ふらつきがある方や認知症の方）には、介助者が付き添うこと

以下の環境では十分に注意して使用してください。転倒やけがの原因になります。

坂道、踏切の横断では十分に注意すること



交通の頻繁なところ、混雑しているところでは十分に注意すること



段差および溝のあるところでは十分に注意すること

段差の手前では必ず止まり、十分注意して慎重に段差を越えてください。

また、段差に斜めに進入すると、ハンドルをとられたり、段差に乗り上がりずにつんのめったりして、段差につまづき転倒の原因になるのでおやめください。



夜間など、見通しの悪い環境では十分に注意すること



滑りやすい床での使用では十分に注意すること

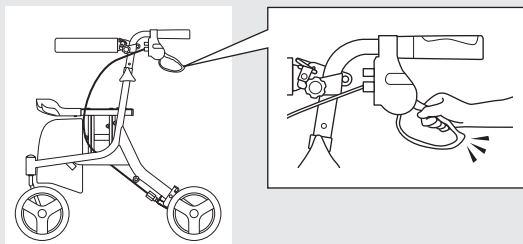
- ・ワックスをかけた床
- ・大理石の床など



以下の点に、十分に注意して使用してください。転倒やけがの原因になります。

以下のときは必ずブレーキレバーを下げ、駐車ロックをかけること

- ・車体からはなれるとき
- ・座面に座るとき
- ・座面から立ち上がる時



車体が不意に動きださないよう、左右両輪が止まっていることを確認してください。

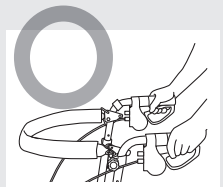
ハンドルグリップは両手で操作すること



片側のみを持って操作しない

ブレーキは左右同時にかけること

片側のみでブレーキをかけると、車体が転倒し、けがの原因になります。



確認しましょう

安全上の「注意」

ご使用の前に

使いましょう

お手入れしましょう

困ったときには

！安全上のご注意



警告

誤った使いかたをすると「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を説明しています。

⊘ 絶対にしないこと ⊘

以下の使い方をすると、転倒やけがの原因になります。

姿勢保持ベルトに手や肘をつけて体を支えないこと

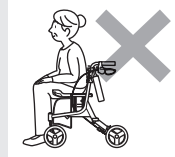
バランスをくずして転倒し、けがの原因になります。また、過度な力が繰り返し加わると、姿勢保持ベルトが破損し、着座時の転倒の原因になります。



姿勢保持ベルト

前方から座らないこと

車体が転倒し、けがの原因になります。



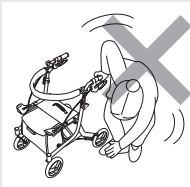
姿勢保持ベルトに過度に体を預けて寄りかからないこと

姿勢保持ベルトがたわみ、後方へ転倒する原因になります。



立ち上がり、立ち座り時の手すり代わりにしないこと

バランスをくずして転倒し、けがの原因になります。



ハンドルに寄りかかったり、過度の荷重をかけないこと

車体が前に移動し、転倒やけがの原因になります。



ハンドル

スーパーなどの店舗内以外で「カゴ※」を載せて歩行しないこと

車体が転倒し、けがの原因になります。

※スーパーなどの店舗のカゴ(以降「カゴ」と表記します)

ブレーキレバーを握った状態、および駐車ロックをかけた状態で歩行しないこと

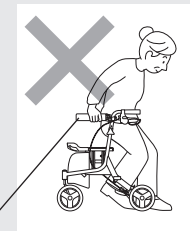
転倒し、けがの原因になります。



ブレーキレバー

姿勢保持ベルトを支えて立ち上がらないこと

過度な力が繰り返し加わると、姿勢保持ベルトが破損し、着座時の転倒の原因になります。



姿勢保持ベルト

座面に人を乗せたまま移動しないこと

車体が転倒し、けがの原因になります。



姿勢保持ベルトを持って製品を持ち上げないこと

過度な力が繰り返し加わると、姿勢保持ベルトが破損し、着座時の転倒の原因になります。



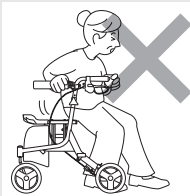
踏み台として利用しないこと

車体が転倒し、けがの原因になります。



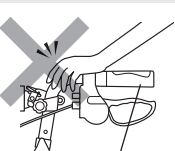
座面に浅く座らないこと また、座面以外のところには座らないこと

車体が移動して利用者が転倒し、けがの原因になります。



ハンドルグリップ以外の場所を持って歩行しないこと

車体が転倒し、けがの原因になります。



ハンドルグリップ

確認しましょう

！安全上のご注意

✕ご使用前に

♡使いましょう

💧お手入れしましょう

？困ったときには



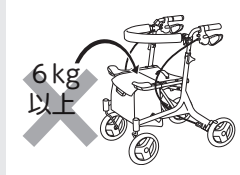
警告

誤った使いかたをすると「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を説明しています。

絶対にしないこと

付属のバッグには6kg以上の荷物を入れないこと

転倒や故障の原因になります。

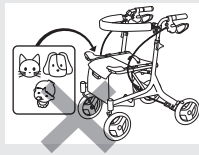


小さなお子様には使用させないこと



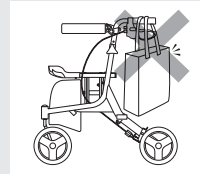
付属のバッグに乳幼児やペットを入れないこと

思わぬ事故の原因になります。



バッグの中以外に荷物に乗せたり、吊るしたりしないこと

バランスをくずして転倒し、けがの原因になります。



体重が100kgを超える方は使用しないこと

車体が破損するなど、けがの原因になります。



改造はしないこと
また、修理技術者以外の方は、分解したり修理しないこと

本体機能が正常にはたらかず、けがの原因になります。



分解禁止

商品梱包用のポリ袋は幼児の手が届くところに置かないこと

幼児がかぶると窒息するおそれがあります。

以下の環境では使用しないでください。転倒やけがの原因になります。

雨、雪の日など路面が滑りやすい時は使用しないこと



傾斜地では腰かけないこと

車体が移動して利用者が転倒し、けがの原因になります。

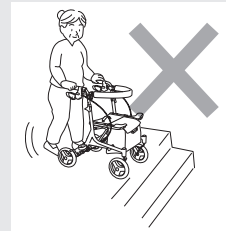


風の強い時は使用しないこと

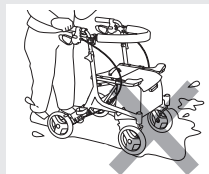
車体が勝手に動きだす原因になります。



階段やエスカレーターでは使用しないこと

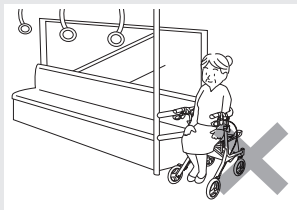


砂、泥のある場所、特にぬかるみや水たまりでは使用しないこと



乗り物に乗るときは以下の行為をおこなわないでください。車体が転倒しけがの原因になります。

バス、電車などの乗り物内では腰かけないこと



バス、電車などの乗り物内で歩行車から手を離さないこと



確認しましょう

安全上の「注意」

ご使用の前に

使いましょう

お手入れしましょう

困ったときには

！ 安全上のご注意



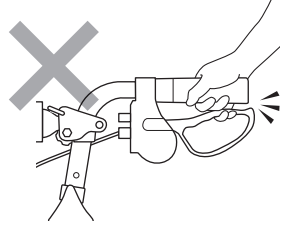
注意

誤った使いかたをすると「傷害または財産への損害が発生する可能性が想定される」内容を説明しています。

⊘ 絶対にしないこと ⊘

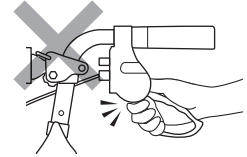
ブレーキレバーとハンドルグリップの間に指を入れたままブレーキをかけないこと

指をはさみ、けがの原因になります。

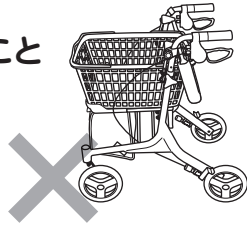


ブレーキレバーとブレーキ基部の間に指を入れたまま駐車ロックをかけないこと

指をはさみ、けがの原因になります。

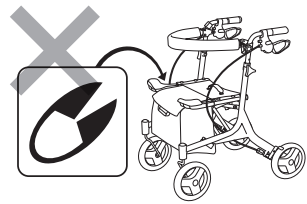


バスケットホルダーに「カゴ」を縦置きしないこと

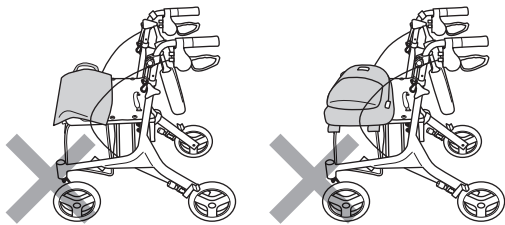


付属のバッグには鋭利なものを入れないこと

破損や故障の原因になります。

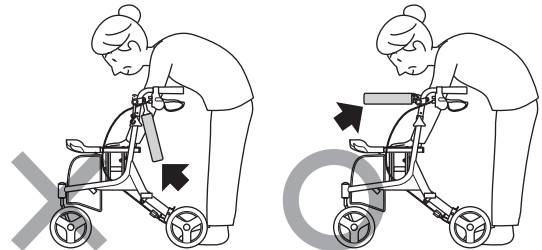


バスケットホルダーに「カゴ」以外を載せないこと



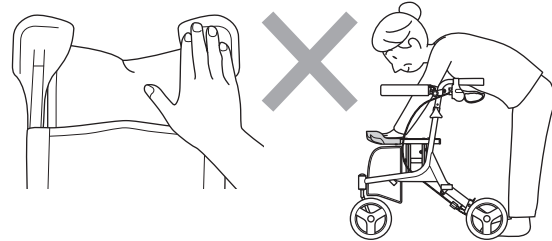
姿勢保持ベルトが後方位置のまま本体を開かないこと

破損や故障の原因になります。

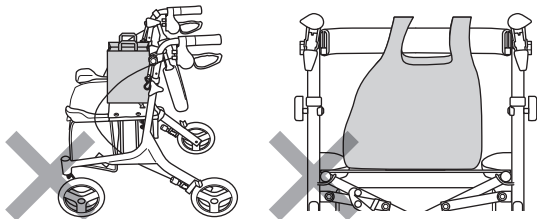


バスケットホルダーを押して本体を開かないこと

破損や故障の原因になります。



座面に購入物などを置かないこと



バッグの中に長時間食品を入れたままにしないこと

保冷効果は簡易的なもので、冷蔵効果はありません。

確認しましょう

！安全上のご注意

✕ご使用の前に

♡使いましょう

💧お手入れしましょう

？困ったときには



注意

誤った使いかたをすると「傷害または財産への損害が発生する可能性が想定される」内容を説明しています。

絶対にしないこと

●お手入れ・保管時の注意 以下の行為をおこなうと、製品の変色や劣化がすすむ原因になります。

次にあげるものではお手入れしないこと

- ・シンナー ・クレゾール
- ・酸、アルカリ性洗剤
- ・塩素系薬剤（洗剤）や熱湯（煮沸消毒など）による殺菌、消毒
- ・磨き粉、タワシ、研磨剤入りスポンジ、その他製品を傷つけるもの

製品が劣化し、破損の原因になります。



消毒に、オゾンガス、ホルムアルデヒドガスを用いないこと

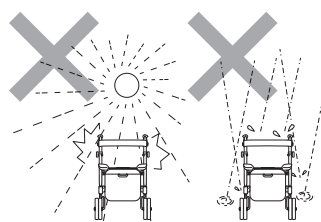
製品が破損する原因になります。

詳しくは…P.24「消毒方法」へ

屋外に放置したり、直射日光に長時間当てたりしないこと

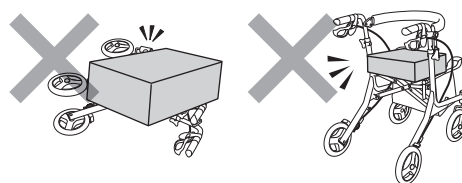
金属部がさびて故障の原因になったり、紫外線による色落ちの原因になります。

直射日光を避け、乾いたところ、風通しの良いところで保管してください。



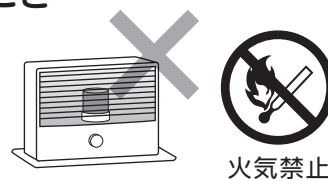
荷物を重ねたり、圧力が加わる状態で保管しないこと

故障や変形の原因になります。



火気に近づけないこと また、夏季の車内など高温になる場所には保管しないこと

故障や変形の原因になります。



火気禁止

確認しましょう

！安全上の「注意」

✕ご使用の前に

♡使いましょう

💧お手入れしましょう

？困ったときには

✖ ご使用の前に

ご使用の前に、下記の流れにそって杖ホルダーの取り付けや高さ調節をおこなってください。

高さ調節は、使う方の体格や立ち座り動作がしやすいようお買い上げの販売店やケアマネジャー等の専門家に相談することをおすすめします。

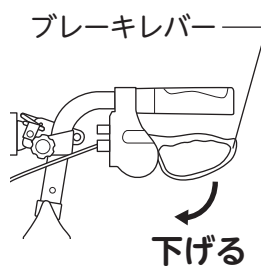


組み立て、および調節は確実にこなってください。

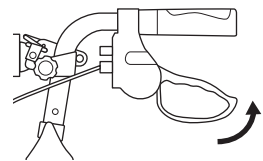
本体を開きましょう

1. 駐車ロックをかける

左右両方のブレーキレバーを自動で戻らなくなるまで、手で押し下げます。



駐車ロックがかかった状態

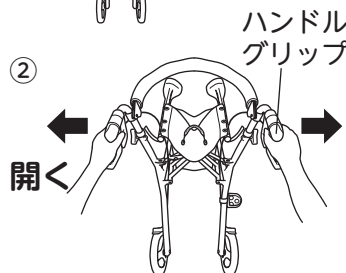


2. ハンドルグリップを持って両側に軽く開き、上から押す

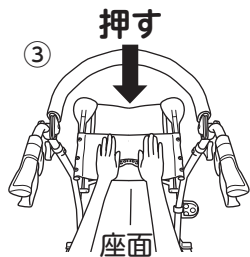
① 折りたたみ保持ベルトを外します。



② 歩行車の後方に立ち、左右のハンドルグリップを持って、両側に軽く開きます。



③ 座面の両端を、右図のように上から手で押し下げます。



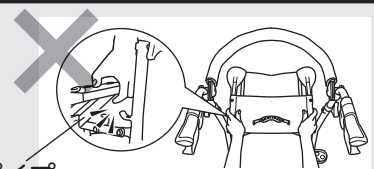
注意



シートパイプの横や下に手や指を置かないこと

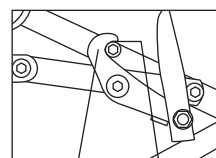
手のはさまり、けがをするおそれがあります。

シートパイプ

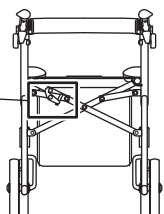


3. 本体が開ききったことを確認する

図のように、折りたたみ保持フックがシャフトにかかっているか確認してください。



折りたたみ保持フック シャフト



確認しましょう

安全上の注意

ご使用の前に

使いましょう

お手入れしましょう

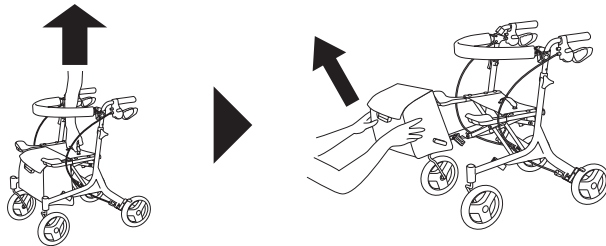
困ったときには

バッグの取り付け、取り外しかた

バッグは取り外して使用できます。出荷時は取り付けられた状態です。

バッグの取り外しかた

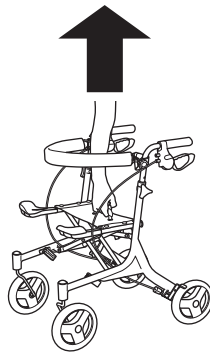
本体を軽く閉じ、バッグを斜め上にスライドさせて取り外してください。



バッグの取り付けかた

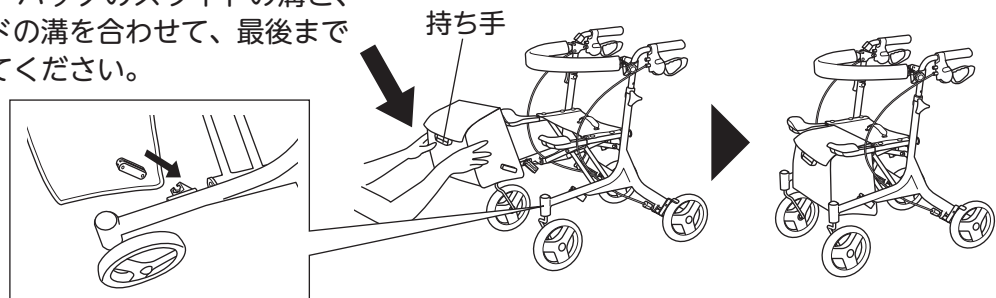
1. 本体を軽く閉じる

折りたたみベルトを上方向に引っ張り、本体を軽く閉じます。



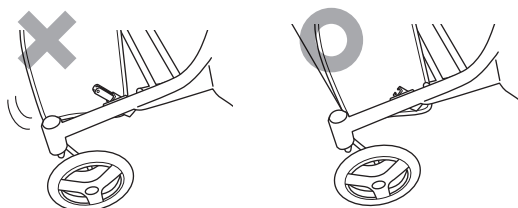
2. バッグ側面の樹脂製のスライドを本体前部のガイドに差し込み、スライドする

図のように、バッグのスライドの溝と、本体のガイドの溝を合わせて、最後までスライドしてください。



3. バッグが奥までスライドされているか、確認する

最後までスライドされているか、確認してください。



注意



バッグの中に長時間食品を入れたままにしないこと

保冷効果は簡易的なもので、冷蔵効果はありません。

確認しましょう

安全上のご注意ください

ご使用前に

使いましょう

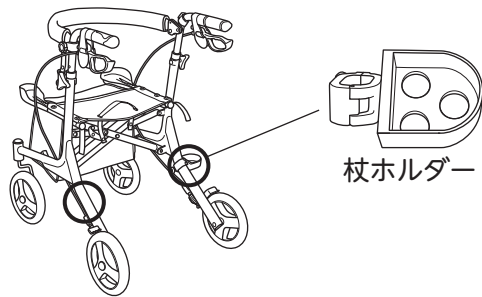
お手入れしましょう

困ったときには

✖ ご使用の前に

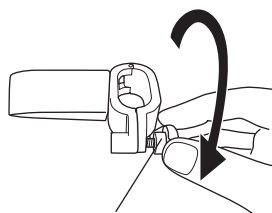
杖ホルダーを固定しましょう

杖ホルダーは左右に取り付けられます。
出荷時は右側に取り付ける設定の状態です。
左側に取り付ける場合は、先に「左側に杖ホルダーを取り付ける場合」を参照してください。

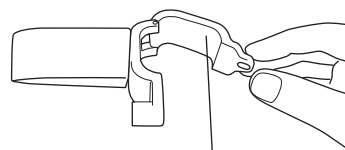


杖ホルダー

1. 杖ホルダー固定ノブボルトを緩めてはずし、固定具を広げる

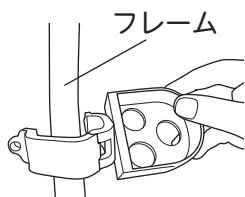


杖ホルダー固定ノブボルト

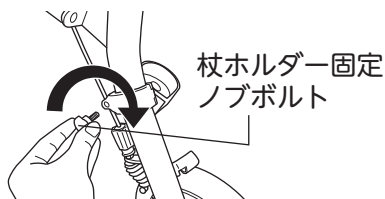


固定具

2. 杖ホルダーをフレームにかけて固定具を閉じ、杖ホルダー固定ノブボルトを締めて固定する



フレーム

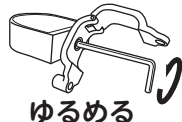


杖ホルダー固定ノブボルト

左側に杖ホルダーを取り付ける場合

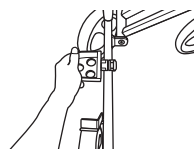
左側に杖ホルダーを取り付ける場合は、以下の手順でホルダー部の角度を変えてください。

① 杖ホルダーのネジを3mmの六角レンチでゆるめます。

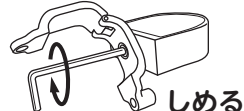


ゆるめる

② ホルダー部の角度を決めます。



③ ①でゆるめたネジをしっかりと締めます。



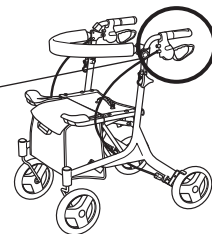
しめる

杖固定ベルトを固定しましょう

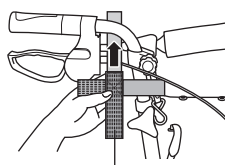
杖固定ベルトには面ファスナーがついています。
図のように、本体のハンドル部分に固定してください。

杖固定ベルト

面ファスナーのループ面 (ざらざらしている方)

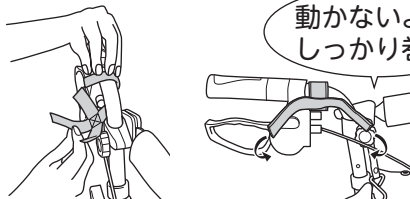


① 図の位置 (ハンドル) に差し込む



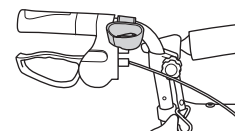
ざらざらしている方

② 差し込んだバンドをハンドルに巻き付けて固定する



動かないよう
しっかり巻く

③ 杖を入れる余裕をもたせて巻く



確認しましょう

安全上の注意

ご使用の前に

使いましょう

お手入れしましょう

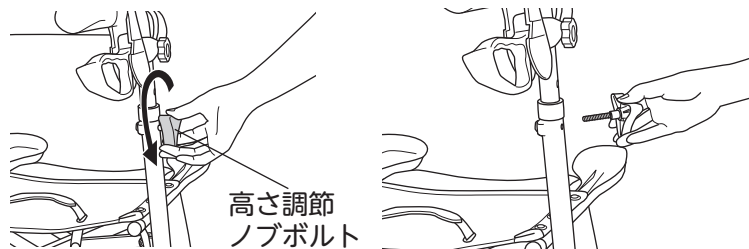
困ったときには

ハンドル高さを調節しましょう

ハンドル高さは 72.5・75・77.5・80・82.5・85・87.5・90cm (8段階) の範囲で調節できます。出荷時は一番低い高さに設定されています。(72.5cm)

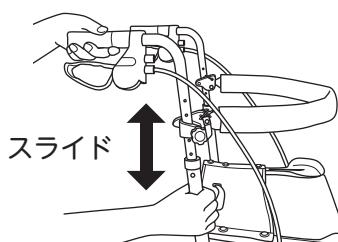
1. 高さ調節ノブボルトをゆるめて抜く

高さ調節ノブボルトをゆるめて引き抜きます。

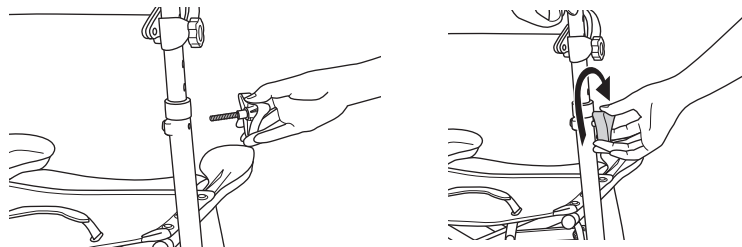


2. ハンドルの高さを合わせる

①ハンドルを上下にスライドさせ、高さを合わせます。



②高さ調節ノブボルトを差し、しめ込みます。



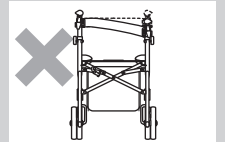
③もう片方のハンドルも同様に高さを合わせます。

警告



ハンドル高さは左右同じ高さにすること

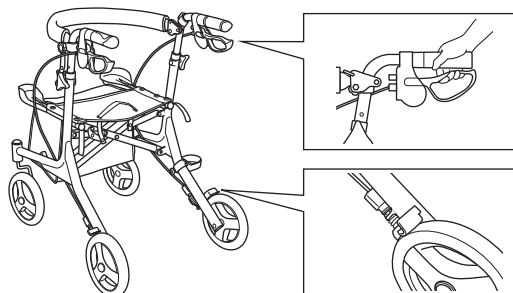
ハンドルの高さが左右異なると、バランスをくずして転倒し、けがの原因になります。



3. ブレーキの利きを確認する

ハンドルの高さ調節をおこなった後、ブレーキの利きが弱い場合はブレーキの調節をおこなってください。

詳しくは…P.24「ブレーキの調節方法」へ



確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

使いましょう

お手入れしましょう

困ったときには

✖ ご使用の前に

姿勢保持ベルトの高さ調節をしましょう

姿勢保持ベルトの高さを無段階で調節できます。
出荷時は一番高い高さに設定されています。
姿勢保持ベルトを外すことはおやめください。

警告



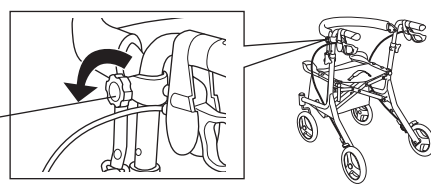
姿勢保持ベルトを外した状態で
使用しないこと

着座時に転倒し、けがの原因になります。

1. 高さ調節ノブボルト(姿勢保持ベルト用)をゆるめる(左右)

図のように、左右の高さ調節ノブボルト
(姿勢保持ベルト用)をゆるめてください。

高さ調節ノブボルト
(姿勢保持ベルト用)

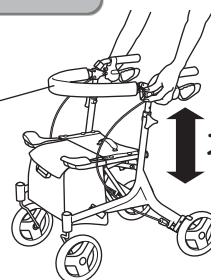


2. 姿勢保持ベルトをスライドさせ、高さを調節する

姿勢保持ベルトを図のように持ってスラ
イドさせ、お好みの高さに調節してくだ
さい。
※左右、同じ位置で固定してください。

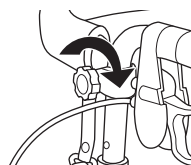
姿勢保持ベルト

スライド



3. 高さ調節ノブボルト(姿勢保持ベルト用)をしめる

図のように、高さ調節ノブボルト(姿勢
保持ベルト用)をしっかりしめてくださ
い。



4. 姿勢保持ベルトが正確に取り付いていることを確認する

右図を確認してください。

姿勢保持ベルトの高さが水平に
なっている

逆向きに取り付いていない



左右の高さ調節ノブボルト
(姿勢保持ベルト用)が
動かないところまでしまっている

確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

使いましょう

お手入れしましょう

困ったときには

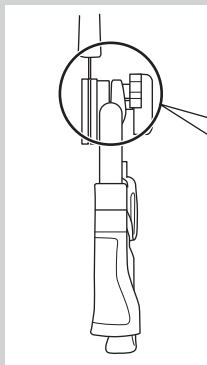
警告



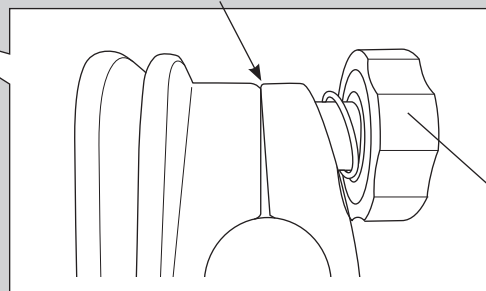
高さ調節ノブボルト（姿勢保持ベルト用）にゆるみがないこと

ゆるんでいると、着座時に不意に姿勢保持ベルトがはずれ、けがの原因になります。

ハンドル上面



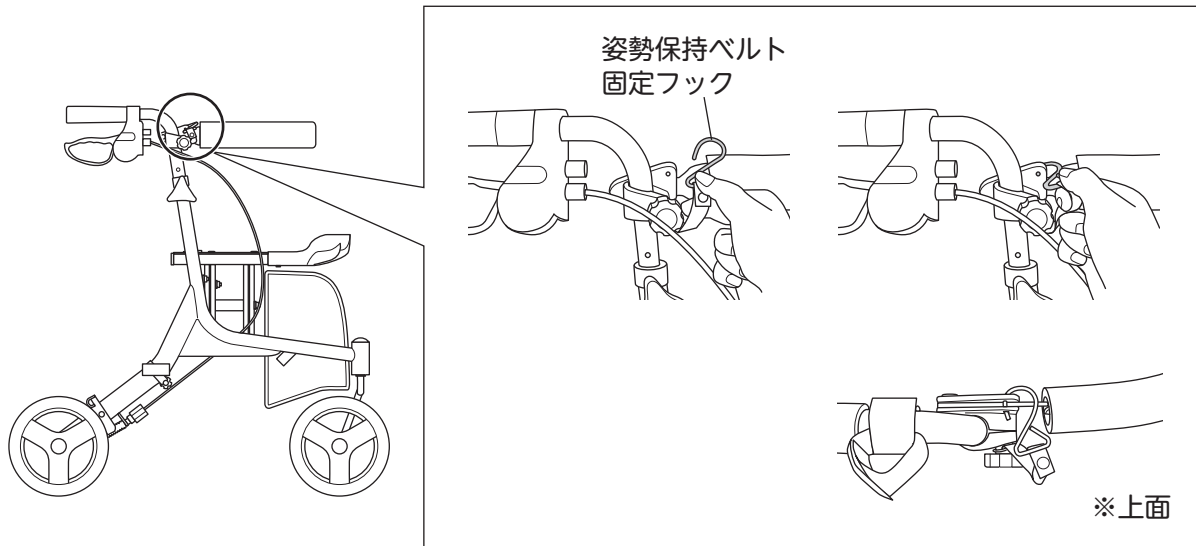
先端に隙間がなくなるようしっかりと締まっていることを確認してください。



高さ調節ノブボルト
（姿勢保持ベルト用）

5. 姿勢保持ベルトを姿勢保持ベルト固定フックで固定する

図のように、姿勢保持ベルトの穴に姿勢保持ベルト固定フックを通してください。



確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

使いましょう

お手入れしましょう

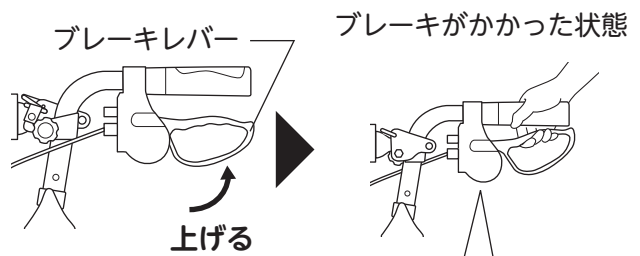
困ったときには

❤️ 使いましょう

操作方法

ブレーキのかけかた

ブレーキレバーを引き上げると
ブレーキがかかります。
ブレーキは左右同時にかけてください。



警告

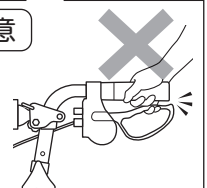


片側のみでブレーキをかけないこと

左右同時にブレーキをかけないと、車体が転倒し、
けがの原因になります。

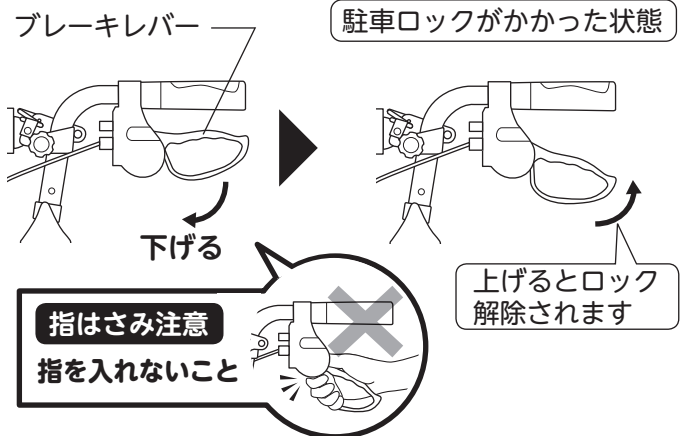
指はさみ注意

指を
入れないこと



駐車ロックのかけかた

ブレーキレバーを自動で戻らなくなる
まで、手で押し下げます。



座面に座るときや保管時は
駐車ロックをかけましょう。

上げるとロック
解除されます

杖の固定のしかた

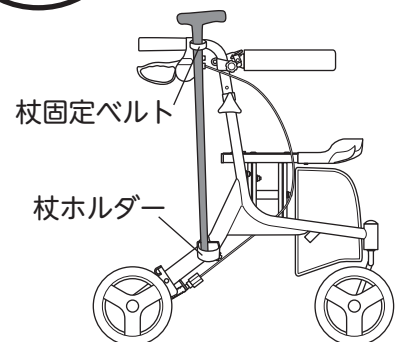
杖の先端を杖ホルダーに入れて、杖固定ベルトで固定してください。

注意



杖の先端は確実に杖ホルダーに入れること

車体や後輪にはさまると歩行中にブレーキがかかり、
転倒するおそれがあります。

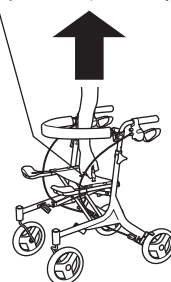


折りたたみかた

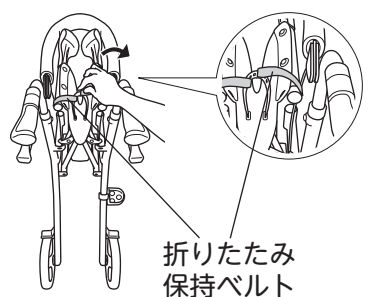
① 折りたたみベルトを上方向に引っ張ります。

② 左右の折りたたみ保持ベルトをとめて固定
します。

① 折りたたみベルト



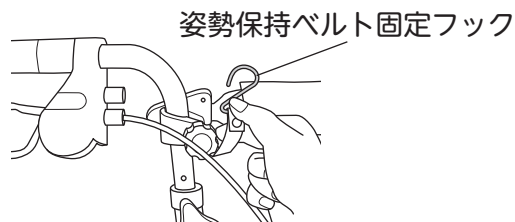
②



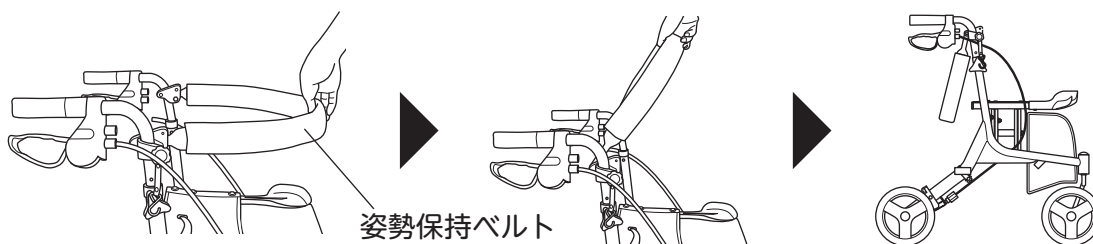
バスケットホルダーの使い方

カゴを載せるとき

①姿勢保持ベルト固定フックを左右ともはずします。



②姿勢保持ベルトを後側に回します。



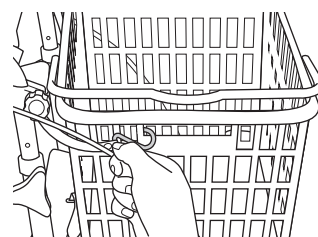
③バスケットホルダーにカゴを載せます。



※バスケットホルダーの縁の内側に「カゴ」が収まるようにご注意ください。

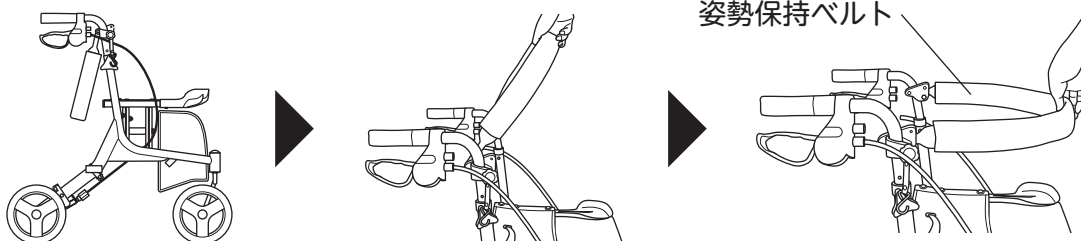
積載可能な「カゴ」のサイズ
底面サイズ
縦 20～31cm × 横 32～43cm
積載可能重量：8kg

④「カゴ」に姿勢保持ベルト固定フックを左右ともかけます。



カゴを降ろしたとき

①姿勢保持ベルトを前側に回します。



②姿勢保持ベルトを姿勢保持ベルト固定フックで固定します

詳しくは…P.16へ

確認しましょう

安全上の注意

ご使用の前に

使いましょう

お手入れしましょう

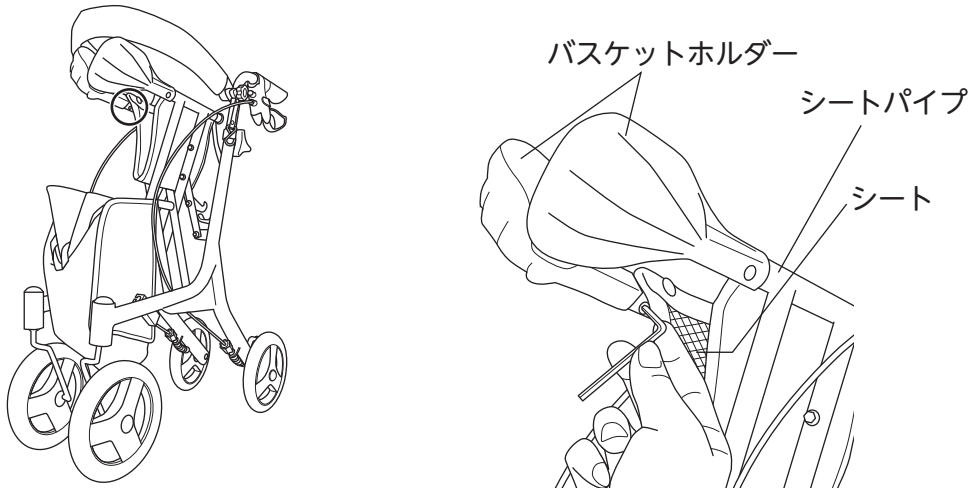
困ったときには

❤️ 使いましょう

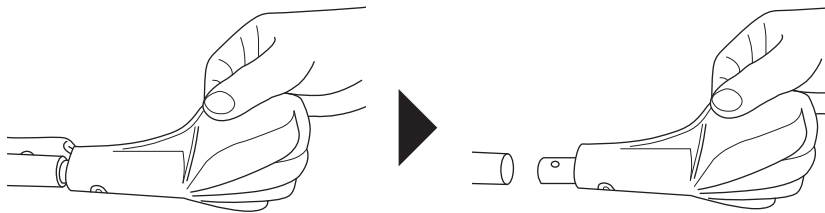
バスケットホルダーが不要な場合は以下のようにはずして使うこともできます。

バスケットホルダーのはずし方

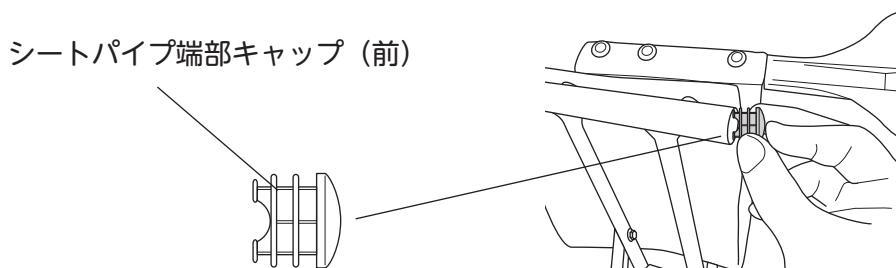
- ①シートパイプ裏側にあるバスケットホルダー固定ボルトを4mmの六角レンチでゆるめて抜きます。



- ②シートパイプからバスケットホルダーを引き抜きます。



- ③シートパイプに製品と同梱されているシートパイプ端部キャップ（前）を差し込みます。
※入りにくい場合はプラスチックハンマー等でたたき込んでください。



- ④もう片方のバスケットホルダーも同様にはずします。

確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

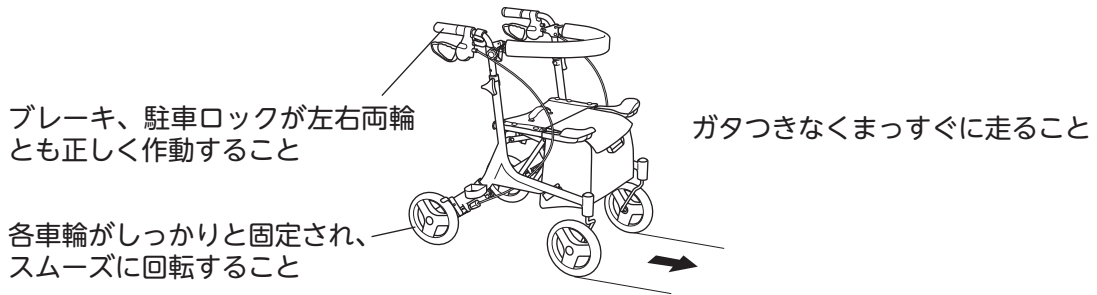
使いましょう

お手入れしましょう

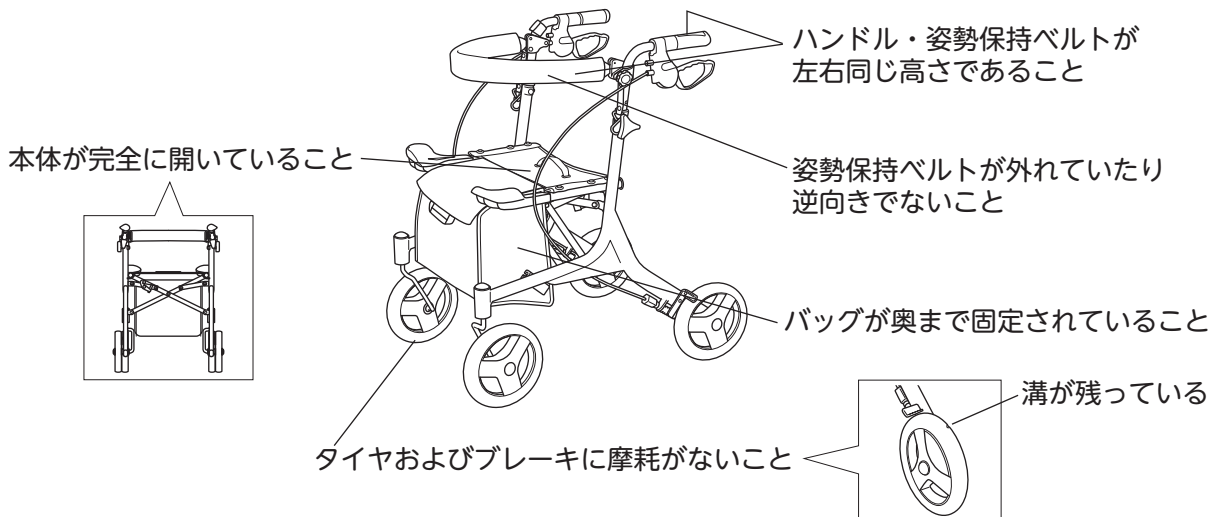
困ったときには

ご使用になる前に確認しましょう (点検)

使用前に、作動を確認してください。

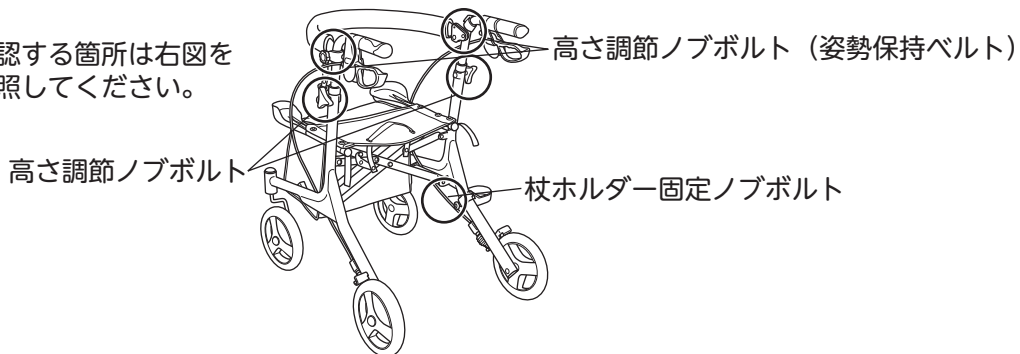


使用前に、必ず車体に異常がないかを確認してください。



各部のネジやナットがゆるんでいないこと

※確認する箇所は右図を参照してください。



不具合を感じた場合はただちに使用をやめ、お買い上げの販売店や弊社「お客様相談室」までご相談ください。

確認しましょう

安全上の注意

ご使用の前に

使いましょう

お手入れしましょう

困ったときには

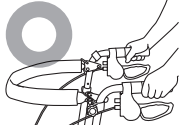
使いましょう

最大使用者体重は 100kgです。

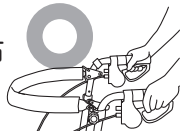
押して歩くとき

以下のことに注意してご使用ください。

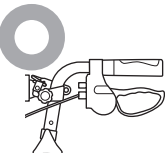
ハンドルグリップは両手で操作する



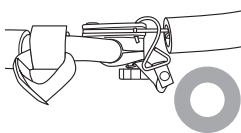
ブレーキは左右同時にかける



歩行時は駐車ロックが解除されている



姿勢保持ベルトが前側に位置し、姿勢保持ベルト固定フックで固定されている



歩いて使用する

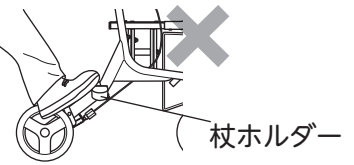
ハンドルに寄りかかったり、全体重をかけるような過度の荷重をかけない



姿勢保持ベルトに手や肘をついて体を支えない



杖ホルダーに足をかけない

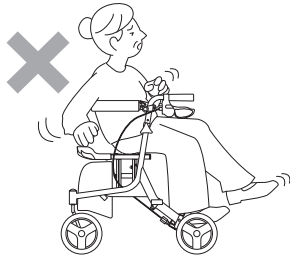


後ろ向きに押さない

腰かけるとき

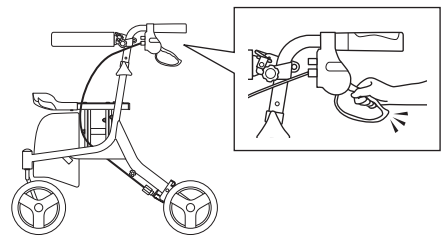
以下のことに注意してご使用ください。

姿勢保持ベルトに体を預けて寄りかからないこと



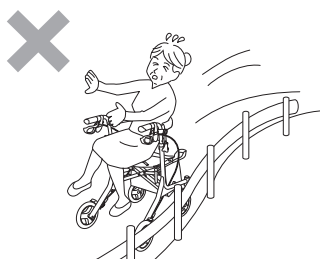
以下のときは、必ずブレーキレバーを下げ、駐車ロックをかける

- ・座面に座るとき
- ・座面から立ち上がる時
- ・車体から離れる時

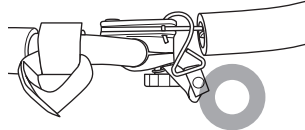


傾斜地では腰かけない

車体が移動して利用者が転倒し、けがの原因になります。



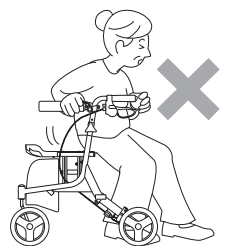
平坦で安定した場所で座ってください。



姿勢保持ベルトが前側に位置し、姿勢保持ベルト固定フックで固定されている

座面には深く座る

浅く座ると車体が移動する可能性があります。



また、座面以外のところには座らないでください。

確認しましょう

安全上の注意

ご使用の前に

使いましょう

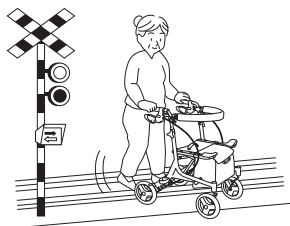
お手入れしましょう

困ったときには

ご使用いただける環境について

以下の環境では、十分に注意して使用してください。

■急な坂道、踏切の横断



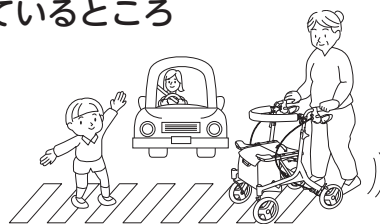
■段差および溝のあるところ

段差の手前では必ず止まり、十分に注意して慎重に段差を越えてください。

また、段差に斜めに進入すると、ハンドルをとられたり、段差に乗り上げらずにつんのめったりして、段差につまづき転倒の原因になるのでおやめください。



■交通の頻繁なところ、混雑しているところ



■夜間など、見通しの悪い環境



■滑りやすい床での使用

- ・ワックスをかけた床
- ・大理石の床など

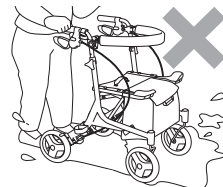


以下の環境では、使用しないでください。

■雨、雪の日など、路面が滑りやすい時は使用しないこと



■砂、泥のある場所、特にぬかるみや水たまりでは使用しないこと



■風が強い時は使用しないこと

車体が勝手に動きだす原因になります。



■階段やエスカレーターでは使用しないこと



確認しましょう

！安全上のご注意

✖ご使用の前に

♡使いましょ

💧お手入れしましょ

？困ったときには

🔴 お手入れしましょう

下記の手順に従ってこまめにお手入れしてください。

🔴 確認しましょう

警告



分解禁止

改造はしないこと

また、修理技術者以外の方は、分解したり修理しないこと

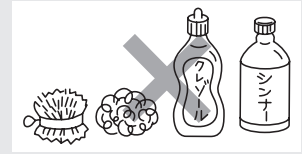
本体機能が正常にはたらかず、けがの原因になります。

注意



次にあげるものではお手入れしないこと

- ・シンナー ・クレゾール
- ・酸、アルカリ性洗剤
- ・塩素系薬剤（洗剤）や熱湯（煮沸消毒など）による殺菌、消毒
- ・磨き粉、タワシ、研磨剤入りスポンジ、その他製品を傷つけるもの



製品が劣化し、破損の原因になります。

🔴 安全上の「注意」

🔴 ご使用の前に

🔴 使いましょう

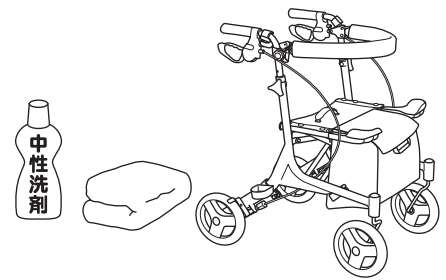
🔴 お手入れしましょう

🔴 困ったときには

お手入れのしかた

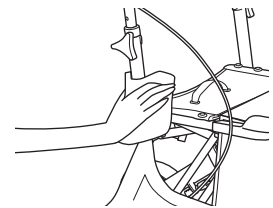
日常のお手入れ方法

※汚れがひどい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れをふきとり、その後、水で濡らした布で洗剤をふきとり、よく乾かしてください。



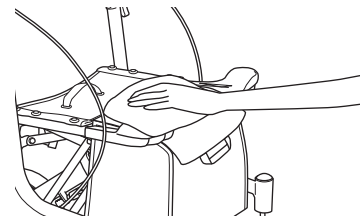
金属部分・樹脂部分

- 雨などでぬれた場合は、乾いた布でふきとってください。
- 泥やほこりがついた場合は、水で濡らした布を固くしぼってふきとり、その後、乾いた布でふいてください。



バッグ・座面

- 水で濡らした布を固くしぼってふきとり、その後、よく乾かしてください。
- 使用後はバッグ内部に水気が残らないよう、乾いた布でよく拭き取ってください。



保管時の注意

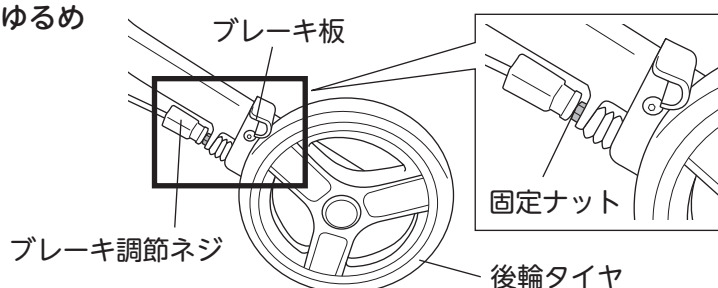
「安全上のご注意」をご確認ください。

詳しくは…P.10へ

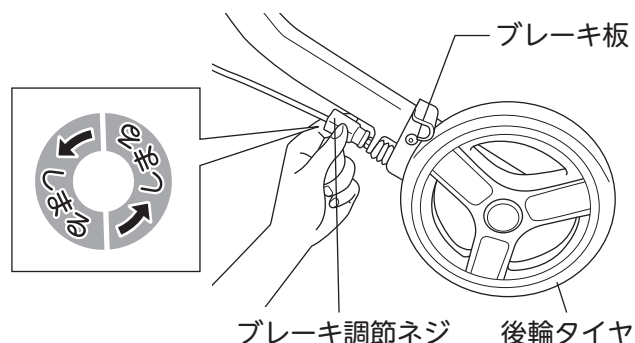
ブレーキの調節方法

ブレーキが利きにくくなった場合、ブレーキ調節ネジでブレーキ板の位置を調節してください。

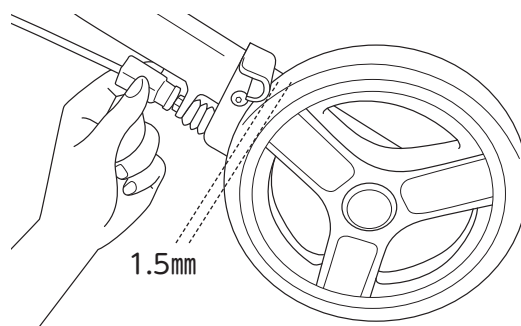
- ① 10mm のスパナを使って固定ナットをゆるめます。



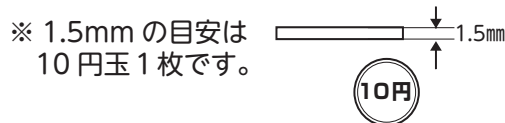
- ② ブレーキ調節ネジを後輪タイヤ側に押しこみ、シールの表記に従って、ブレーキ調節ネジを回します。



- ③ ブレーキ板とタイヤのすき間が 1.5mm ぐらいになるように調節してください。すき間が小さくなりすぎてしまった場合は、ブレーキ調節ネジを逆方向に回して調節してください。



- ④ 固定ナットを元の位置までしめつけます。



消毒方法

消毒は納入業者、または消毒施設のある業者に依頼してください。

製品の消毒は、アルコール清拭消毒、逆性石けん清拭消毒などを推奨します。製品に使用している素材の物性を考慮した消毒方法を選択してください。

注意



消毒に、オゾンガス、ホルムアルデヒドガスは使用しないこと

製品が破損する原因になります。

確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

使いましょう

お手入れしましょう

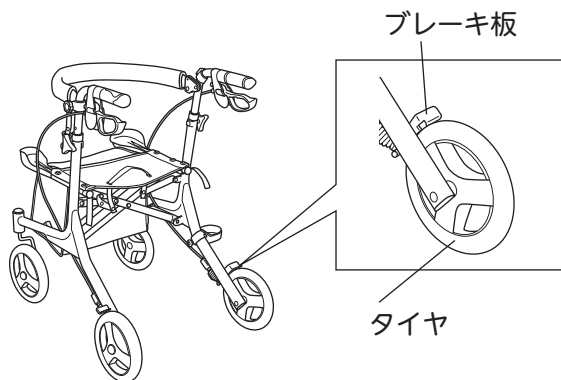
困ったときには

💧 お手入れしましょう / ❓ 困ったときには

注油について

きしみ音が発生したり作動が鈍い時は、泥や汚れをふきとってから原因の箇所少量のシリコン系潤滑油を注油してください。

タイヤ、ブレーキ板に油がつかないように注意し、もし付着した場合はよくふきとってください。



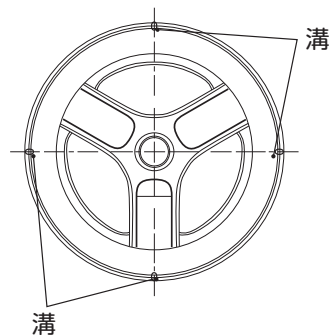
タイヤ交換時期の目安

タイヤ内側に4ヶ所あるタイヤ交換サインの溝が1ヶ所でも削れて見えなくなったときが交換時期です。

※タイヤ交換サインは摩耗による交換時期の目安です。

長期の使用による素材の劣化（ひび割れなど）が見られる場合は、タイヤ交換サインの状態にかかわらず、ただちに交換してください。

※タイヤ交換はお買い求めの販売店にお問い合わせください。



確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

使しましょう

お手入れしましょう

困ったときには

保証とアフターサービス

商品のご購入に関するお問い合わせ、ご相談は…お買い求めの販売店へ
商品の仕様等に関するお問い合わせ、ご相談は…下記お客様相談室へ

不具合が発生したとき

万一故障したり、また異常を感じた場合は、ご自分で修理、改造などを絶対にしないで、お買い上げの販売店にご相談ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って修理させていただきますので、製品に保証書（取扱説明書）を添えて、お買い上げの販売店にご依頼ください。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。部品供給、また修理対応期間はメーカー製品廃番後3年となります。ただし、期間内でも破損箇所によっては、部品供給、または修理できないケースがございますのでご了承ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業、作業員の出張にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

アロン化成株式会社

フリーダイヤル

お客様相談室 ☎0120-86-7735

(受付時間) 祝祭日以外の
月～金 9:00～17:00
(12:00～13:00 は除く)

確認しましょう

安全上の注意

ご使用前に

使いましょう

お手入れしましょう

困ったときには

※本製品をほかの方にお譲りになる場合は、必ず本書もあわせてお渡してください。

